

## ■ ディプロマ・ポリシー

時代や社会の変化、要請に柔軟に対応できる有為な理・美容師、ビューティーセラピストを養成ことを掲げる教育目標に基づき、専門的な知識・技能のみならず豊かな人間性をみにつけた者については卒業を認定する。

## ■ カリキュラム・ポリシー

本校では専門課程教育において、理・美容師、ビューティーセラピストに必要である技能、知識を身に付け国家資格および認定資格の取得のため、その要件を満たすカリキュラムを実施し学生が自主的に学習することができるよう、講義、実習、実技等を適切に授業をおこないます。

### (1) 授業計画書（シラバス）の作成について

教務部長が学則（別表）に基づき講義計画を立案・作成しその後、各学科長を交え部科長会議の議を経て校長の承認を得る。

公表時期は実施する前年度末 3 月中旬までに作成し、同月 25 日以降公表。 新年度 4 月より実施。

### (2) 学習成果の評価について

教科課目の成績評価は学年末において、各学期ごとに実施する定期試験の結果履修状況等を総合的に勘案しておこなう。

学習評価の取り扱いについては、別に定める学業成績の評価等に関する規定（成績評価内規）による。

※ 定期試験の結果、60 点以上を合格とし 59 点以下を不合格とする。

※ 上記の成績評価の方法・基準により、厳格かつ適正に履修認定を実施している。

### (3) 成績評価について

1. 成績評価は各学期ごとに実施する、定期試験の点数を点数化し、平均点を算出しておこなう。

なお、100 点満点で点数化している。

2. 上記方法により客観的な指標を算出し、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に成績評価を実施している。

### (4) 卒業・進級の認定について

教育目標に掲げる時代や社会の変化、要請に柔軟に対応できる有為な理・美容師、ビューティーセラピストを養成することに基づき、専門的な知識・技能のみならず豊かな人間性をみにつけた者については卒業を認定する。

学則第 16 条

1) 教科課目の成績評価は学年末において各学期ごとに実施する定期試験の結果、履修状況等を総合的に勘案しておこなう。

2) 課程修了の認定は、第 16 条の 1 に定める教科課目の成績評価内規に基づき、校長が認定する。

ただし、各教科課目ごとに講義課目では 1/3 以上、実技課目では 1/5 以上の欠課（欠席）がないこと。

3) 所定の課程を修了したと認められた者については卒業証書を授与する。

専門課程

理 容 科				
授業科目	必修の別	年間授業時数		総授業時間数
		第1学年	第2学年	
関係法規・制度	必修	20	10	30
衛生管理	必修	50	40	90
保健	必修	50	40	90
化粧品化学	必修	40	20	60
文化論	必修	40	20	60
理容技術理論	必修	90	60	150
運営管理	必修	20	10	30
理容実習	必修	390	510	900
リラクゼーション	必修	30	30	60
アーティスティック	必修	30	30	60
ヘルス&ヘアケア	必修	15	15	30
トータルビューティー	必修	120	120	240
シュミレーション	必修	105	105	210
合 計		1,000	1,010	2,010

専門課程

美 容 科				
授業科目	必修の別	年間授業時数		総授業時間数
		第1学年	第2学年	
関係法規・制度	必修	20	10	30
衛生管理	必修	50	40	90
保健	必修	50	40	90
化粧品化学	必修	40	20	60
文化論	必修	40	20	60
美容技術理論	必修	90	60	150
運営管理	必修	20	10	30
美容実習	必修	390	510	900
リラクゼーション	必修	30	30	60
アーティスティック	必修	30	30	60
ヘルス&ヘアケア	必修	15	15	30
トータルビューティー	必修	120	120	240
シュミレーション	必修	105	105	210
合 計		1,000	1,010	2,010

専門課程

ビューティーセラピスト科

授業科目	必修の別	年間授業時間数		総授業時間数
		第1学年	第2学年	
生命活動とホメオスタシス	必修	15	14	29
解剖生理学	必修	30	30	60
皮膚科学	必修	33	33	66
栄養学	必修	18	18	36
化粧品化学	必修	15	14	29
エステティック機器学	必修	9	9	18
衛生管理	必修	9	8	17
エステティックカウンセリング	必修	37	37	74
エステティック概論	必修	5	5	10
関連法規	必修	4	4	8
サロン経営学	必修	14	13	27
運動生理学	必修	6	6	12
救急法	必修	3	2	5
フェイシャル	必修	183	183	366
ボディ・脱毛	必修	186	186	372
ネイル・メイク	必修	189	189	378
海外エステ	必修	126	126	252
トータルセラピー	必修	78	77	155
接客・マナー	必修	48	48	96
合 計		1,005	1,005	2,010

**【理容科】**

シラバス

課程名	理美容専門課程	学科名		理容科	
授業課目名	関係法規・制度	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	30 時間（第 1 学年 20 時間 / 第 2 学年 10 時間）				
【授業課目概要】					
理容師法及び業務に関する法令や制度を学ぶ。					
【到達目標】					
理容師法及び業務に関する法令や制度を正しく理解すること。					
【成績評価の方法・基準】					
各学期ごとに実施する定期試験において 60 点以上であること。					
授業内容					
1.社会生活における法の役割		10.人（理容師・美容師）に関する規定			
2.法の形式		11.施設（理容所・美容所）に関する規定			
3.衛生法規の概要		12.立入検査と環境衛生監視員			
4.理容師法・美容師法と附属法令		13.違反者等に対する行政処分			
5.衛生行政の意義と歴史		14.罰則			
6.衛生行政の分類と生活衛生行政の内容		15.理容業・美容業の運営に関する法律			
7.衛生行政を担う行政機関		16.理容業・美容業の衛生に関する法律			
8.理容師法美容師法・目的		17.理容業・美容業の消費者保護に関する法律			
9.理容師法・美容師法・用語の定義					
使用教科書					
・関係法規・制度（公益社団法人 日本理容美容教育センター）					
・理容師法関係法令集（公益社団法人 日本理容美容教育センター）					
実務教員の実務経験					

課程名	理美容専門課程	学科名		理容科	
授業課目名	衛生管理	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	90 時間 (第 1 学年 50 時間 / 第 2 学年 40 時間)				
公衆衛生、感染症、環境衛生、消毒の意義、目的及び消毒法について学ぶ。					
【到達目標】 公衆衛生、感染症、環境衛生、消毒の意義、目的及び消毒法について正しく理解すること。					
【成績評価の方法・基準】 各学期ごとに実施する定期試験において 60 点以上であること。					
授業内容					
1.公衆衛生の意義と課題		16.主な感染症			
2.公衆衛生発展の歴史		17.具体的な対策の例			
3.理容師・美容師と公衆衛生		18.消毒とは			
4.保健所と理容業・美容業		19.消毒の意義			
5.保健		20.理容・美容の業務と消毒との関係			
6.環境衛生の概要		21.消毒法と適用上の注意			
7.空気環境		22.理学的消毒法（殺菌法）			
8.衣服・住居の衛生		23.化学的消毒法（殺菌法）			
9.上・下水道と廃棄物		24.すぐれた消毒法とその実施上の注意			
10.衛生害虫とネズミ		25.各種消毒薬			
11.環境保全		26.理容所・美容所の消毒の実際			
12.人と感染症		27.理容所・美容所の清潔法の実際			
13.病原微生物		28.理容所及び美容所における衛生管理要領			
14.感染症の予防		29.理・美容所の自主管理点検表			
15.理容・美容と感染症					
使用教科書					
・衛生管理（公益社団法人 日本理容美容教育センター）					
実務教員の実務経験	岩手県保健所勤務経験あり。（薬剤師）60 時間/90 時間				
	製薬会社勤務経験あり。（薬剤師）30 時間/90 時間				

課程名	理美容専門課程	学科名		理容科	
授業課目名	保健	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	90 時間 (第 1 学年 50 時間 / 第 2 学年 40 時間)				
【授業課目概要】					
人体の構造と機能、皮膚・毛髪などの構造について学ぶ。					
【到達目標】					
人体の構造と機能、皮膚・毛髪などの構造について正しく理解すること。					
【成績評価の方法・基準】					
各学期ごとに実施する定期試験において 60 点以上であること。					
授業内容					
1.頭部、顔部、頸部の体表解剖学		8.消化器系			
2.骨格器系		9.皮膚の構造			
3.筋系		10.皮膚付属器官の構造			
4.神経系		11.皮膚の循環器系と神経系			
5.感覚器系		12.皮膚と皮膚付属器官の生理機能			
6.血液・循環器系		13.皮膚と皮膚付属器官の保健			
7.呼吸器系		14.皮膚と皮膚付属器官の疾患			
使用教科書					
・保健（公益社団法人 日本理容美容教育センター）					
実務教員の实務経験	開業医。(医師) 40 時間/90 時間				

課程名	理美容専門課程	学科名		理容科	
授業課目名	化粧品化学	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	60 時間 (第 1 学年 40 時間 / 第 2 学年 20 時間)				
<b>【授業課目概要】</b>					
化粧品化学の働きを理解し、必要な科学的知識を学ぶ。					
<b>【到達目標】</b>					
化粧品化学の働きを理解し、必要な科学的知識を正しく理解すること。					
<b>【成績評価の方法・基準】</b>					
各学期ごとに実施する定期試験において 60 点以上であること。					
授業内容					
1. 化粧品の社会的意義と品質特性		15. 化粧水			
2. 化粧品の規制		16. クリーム・乳液			
3. 化粧品の安定性と取扱い上の注意		17. その他の基礎化粧品			
4. 化粧品と安全性		18. メイクアップ用化粧品の種類と剤形			
5. 化粧品の対象となる人体各部の性状		19. ベースメイクアップ化粧品			
6. 水性原料		20. ポイントメイクアップ化粧品			
7. 油性原料		21. シャンプー剤			
8. 界面活性剤		22. スタイル剤			
9. 高分子化合物		23. パーマ剤			
10. 色材		24. ヘアカラー製品			
11. 香料		25. 育毛剤			
12. その他の配合成分		26. 芳香製品			
13. ネイル、まつ毛エクステンション用材料		27. 特殊化粧品			
14. 皮膚清浄用化粧品					
使用教科書					
・化粧品化学 (公益社団法人 日本理容美容教育センター)					
実務教員の実務経験					



課程名	理美容専門課程	学科名		理容科	
授業課目名	文化論	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	60 時間 (第 1 学年 40 時間 / 第 2 学年 20 時間)				
【授業課目概要】					
ヘア、ファッションの歴史を学び施術の際に必要な美的感覚と表現力を養う。					
【到達目標】					
ヘア、ファッションの歴史を学び施術の際に必要な美的感覚と表現力できること。					
【成績評価の方法・基準】					
各学期ごとに実施する定期試験において 60 点以上であること。					
授業内容					
1.総論 2.日本の理容業・美容業の歴史 3.ファッション文化史 日本編 4.ファッション文化史 西洋編 5.礼服の種類					
使用教科書					
・文化論 (公益社団法人 日本理容美容教育センター)					
実務教員の実務経験					

課程名	理美容専門課程	学科名		理容科	
授業課目名	理容技術理論	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	150 時間 (第 1 学年 90 時間 / 第 2 学年 60 時間)				
【授業課目概要】 理容に用いる器具や機械の種類と目的を理解。理容の基礎的技術理論を学ぶ。					
【到達目標】 理容に用いる器具や機械の種類と目的を理解する。理容の基礎的技術理論を理解すること。					
【成績評価の方法・基準】 各学期ごとに実施する定期試験において 60 点以上であること。					
授業内容					
1.理容技術の基礎		8.シエビング			
2.理容用具		9.理容エステティック			
3.ヘアデザイン		10.理容クリニック			
4.ヘアカット		11.シャンプー＆リンス			
5.ヘアセット		12.理容マッサージ			
6.パーマネントセット		13.ヘアトリートメント			
7.ヘアカラーリング		14.スカルプトリートメント			
使用教科書					
・理容技術理論 1・2 (公益社団法人 日本理容美容教育センター)					
実務教員の実務経験	理容師として勤務経験あり。				

課程名	理美容専門課程	学科名		理容科	
授業課目名	運営管理	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	30 時間 (第 1 学年 20 時間 / 第 2 学年 10 時間)				
【授業課目概要】 経営管理及び労務管理の基本的事項や接客の重要性を自覚させ消費者対応の基本を学ぶ。					
【到達目標】 経営管理及び労務管理の基本的事項や接客の重要性を自覚し接客の基本ができること。					
【成績評価の方法・基準】 各学期ごとに実施する定期試験において 60 点以上であること。					
授業内容					
1.経営とは・経営者とは		6.従業員としての視点から			
2.理容業・美容業の経営について		7.サービス・デザイン			
3.資金の管理		8.マーケティング			
4.人という資源		9.サービスにおける人の役割			
5.健康・安全な職場環境の実現					
使用教科書					
・運営管理 (公益社団法人 日本理容美容教育センター)					
実務教員の実務経験					

課程名	理美容専門課程	学科名		理容科	
授業課目名	理容実習	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	900 時間（第 1 学年 390 時間 / 第 2 学年 510 時間）				
【授業課目概要】					
カット、シェービング、シャンプーなど理容技術の基本技術を学ぶ。					
【到達目標】					
カット、シェービング、シャンプーなど理容技術の基本技術を修得すること。					
【成績評価の方法・基準】					
各学期ごとに実施する定期試験において 60 点以上であること。					
授業内容					
1.スタンドシャンプー		8.ハンドケア			
2.デザインヘア		9.フットケア			
3.ヘアセッティング		10.ヘアクリニック			
4.パーマネットウエーブ		11.シャンプーイング&リンシング			
5.アイアニング		12.ヘッドマッサージ			
6.ヘアカラーリング		13.クリニックマッサージ			
7.シェービング					
使用教科書					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・理容実習 1・2（公益社団法人 日本理容美容教育センター）</li> <li>・理容師実技試験課題「技術の解説」（公益財団法人 理容師美容師試験研修センター）</li> </ul>					
実務教員の実務経験	理容師として勤務経験があり。				

課程名	理美容専門課程	学科名		理容科	
授業課目名	リラクゼーション	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	60 時間 (第 1 学年 30 時間 / 第 2 学年 30 時間)				
【授業課目概要】 各技法によるリラクゼーション、手技によるリラクゼーションを学ぶ。 傷病者の観察の仕方および一次救命処置（心肺蘇生、AED を用いた除細動、気道異物去等救急の基礎を学ぶ。					
【到達目標】 各技法によるリラクゼーション、手技によるリラクゼーションが理解できること。 赤十字ベーシックライフサポーター認定証を取得すること。					
【成績評価の方法・基準】 授業時間数を履修すること。満たしていないものについては補講によって満たすことができる。					
授業内容					
1.概論 2.各技法によるリラクゼーション 3.手技によるリラクゼーションの理論及び実技 4.救急法 5.運動					
使用教科書					
・担当教員オリジナルテキスト					
実務教員の实務経験	療術院開院（療術師）として勤務経験あり。赤十字救急法指導員として講習会講師活動経験あり。				

課程名	理美容専門課程	学科名		理容科	
授業課目名	アーティストック	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	60 時間 (第 1 学年 30 時間 / 第 2 学年 30 時間)				
【授業課目概要】 デッサンの基本技術を学び、イメージしたヘアアレンジを描けることを学ぶ。					
【到達目標】 デッサンの基本技術を学び、イメージしたヘアアレンジを描けること。					
【成績評価の方法・基準】 授業時間数を履修すること。満たしていないものについては補講によって満たすことができる。					
授業内容					
1.幾何学立体のデッサン 2.静物画のデッサン 3.頭蓋骨のデッサン I・II 4.相モデルで描き合う I・II 5.髪の手書き I・II 6.芸術鑑賞					
使用教科書					
・担当教員オリジナル資料					
実務教員の経験	芸術家として個展開催経験あり。				

課程名	理美容専門課程	学科名		理容科	
授業課目名	ヘルス&ヘアケア	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	30 時間 (第 1 学年 150 時間 / 第 2 学年 15 時間)				
【授業課目概要】					
食品栄養学、食生活をとおし健康管理を学ぶ。毛髪の構造と働きを学ぶ。					
【到達目標】					
食品栄養学、食生活をとおし健康管理ができること。毛髪の構造と働きを理解すること。					
【成績評価の方法・基準】					
授業時間数を履修すること。満たしていないものについては補講によって満たすことができる。					
授業内容					
1.食事と健康について		8.インフルエンザ感染と予防栄養			
2.糖質の代謝		9.生活習慣病			
3.体タンパク質の代謝		10.妊娠とアレルギー（母乳栄養）			
4.脂質の種類と働き		11.行事食			
5.壊血病		12.髪の栄養			
6.ビタミンA・D・B1・B2・B6・B12・E		13.毛髪の構造			
7.ナトリウム、カリウム欠乏と過剰摂取、含有食品		14.毛髪の働き			
		15.スカルプトリートメント			
使用教科書					
・担当教員オリジナル資料					
実務教員の実務経験	特定保健指導従事者（管理栄養士）として勤務経験あり。（企業、病院）24 時間/30 時間				
	理容師として勤務経験あり。6 時間/30 時間				

課程名	理美容専門課程	学科名		理容科	
授業科目名	トータルビューティ	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	240 時間 (第 1 学年 120 時間 / 第 2 学年 120 時間)				
【授業科目概要】					
マイルドシェービング、エステティック、ネイル、メイクアップ、アップ、着付けなどを学ぶ。					
【到達目標】					
マイルドシェービング、エステティック、ネイル、メイクアップ、アップ、着付けが概ねできること。					
【成績評価の方法・基準】					
授業時間数を履修すること。満たしていないものについては補講によって満たすことができる。					
授業内容					
1.マイルドシェービング 2.エステティック 3.ネイルケア・アート 4.メイクアップ 5.アップ 6.着付け					
使用教科書					
・理容技術理論 2 (公益社団法人 日本理容美容教育センター) ・理容実習 2 (公益社団法人 日本理容美容教育センター) ・JNA テクニカルシステムベーシック (NPO 法人日本ネイリスト協会) ・担当教員オリジナルテキスト					
実務教員の实務経験	理容師として勤務経験あり。				



課程名	理美容専門課程	学科名		理容科	
授業科目名	シミュレーション	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	210 時間（第 1 学年 105 時間 / 第 2 学年 105 時間）				
【授業科目概要】 実技試験・筆記試験へ向け、模擬試験を実施し国家試験の対策を実践的におこなう。 就職へ向けての基礎知識や面接指導等、就職の対策をおこなう。 サロンを想定したロールプレイングをとおしサロンワークを学ぶ。					
【到達目標】 理容師国家試験実技試験・筆記試験に向けて技術・知識を修得すること。 就職試験に向けた面接対応ができること。 サロンを想定したロールプレイングをとおし、実践できること。					
【成績評価の方法・基準】 授業時間数を履修すること。満たしていないものについては補講によって満たすことができる。					
授業内容					
1. 国家試験実技試験を想定した実践 2. 国家試験筆記試験を想定した実践 3. 理容サロンを想定したサロンワーク					
使用教科書					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・理容師実技試験課題「技術の解説」（公益財団法人 理容師美容師試験研修センター）</li> <li>・担当教員オリジナルテキスト</li> <li>・担当教員オリジナル資料</li> </ul>					
実務教員の実務経験	理容師として勤務経験あり。				

【美容科】

シラバス

課程名	理美容専門課程	学科名		美容科	
授業課目名	関係法規・制度	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	30 時間 （第 1 学年 20 時間 / 第 2 学年 10 時間）				
【授業課目概要】					
美容師法及び業務に関する法令や制度を学ぶ。					
【到達目標】					
美容師法及び業務に関する法令や制度を正しく理解すること。					
【成績評価の方法・基準】					
各学期ごとに実施する定期試験において 60 点以上であること。					
授業内容					
1.社会生活における法の役割		10.人（理容師・美容師）に関する規定			
2.法の形式		11.施設（理容所・美容所）に関する規定			
3.衛生法規の概要		12.立入検査と環境衛生監視員			
4.理容師法・美容師法と附属法令		13.違反者等に対する行政処分			
5.衛生行政の意義と歴史		14.罰則			
6.衛生行政の分類と生活衛生行政の内容		15.理容業・美容業の運営に関する法律			
7.衛生行政を担う行政機関		16.理容業・美容業の衛生に関する法律			
8.理容師法美容師法・目的		17.理容業・美容業の消費者保護に関する法律			
9.理容師法・美容師法・用語の定義					
使用教科書					
・関係法規・制度（公益社団法人 日本理容美容教育センター）					
・美容師法関係法令集（公益社団法人 日本理容美容教育センター）					
実務教員の実務経験					

課程名	理美容専門課程	学科名		美容科	
授業課目名	衛生管理	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	90 時間 (第 1 学年 50 時間 / 第 2 学年 40 時間)				
公衆衛生、感染症、環境衛生、消毒の意義、目的及び消毒法について学ぶ。					
【到達目標】 公衆衛生、感染症、環境衛生、消毒の意義、目的及び消毒法について正しく理解すること。					
【成績評価の方法・基準】 各学期ごとに実施する定期試験において 60 点以上であること。					
授業内容					
1.公衆衛生の意義と課題		16.主な感染症			
2.公衆衛生発展の歴史		17.具体的な対策の例			
3.理容師・美容師と公衆衛生		18.消毒とは			
4.保健所と理容業・美容業		19.消毒の意義			
5.保健		20.理容・美容の業務と消毒との関係			
6.環境衛生の概要		21.消毒法と適用上の注意			
7.空気環境		22.理学的消毒法（殺菌法）			
8.衣服・住居の衛生		23.化学的消毒法（殺菌法）			
9.上・下水道と廃棄物		24.すぐれた消毒法とその実施上の注意			
10.衛生害虫とネズミ		25.各種消毒薬			
11.環境保全		26.理容所・美容所の消毒の実際			
12.人と感染症		27.理容所・美容所の清潔法の実際			
13.病原微生物		28.理容所及び美容所における衛生管理要領			
14.感染症の予防		29.理・美容所の自主管理点検表			
15.理容・美容と感染症					
使用教科書					
・衛生管理（公益社団法人 日本理容美容教育センター）					
実務教員の実務経験	岩手県保健所勤務経験あり。（薬剤師） 60 時間/90 時間				
	製薬会社勤務経験あり。（薬剤師） 30 時間/90 時間				

課程名	理美容専門課程	学科名		美容科	
授業課目名	保健	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	90 時間 (第 1 学年 50 時間 / 第 2 学年 40 時間)				
【授業課目概要】					
人体の構造と機能、皮膚・毛髪などの構造について学ぶ。					
【到達目標】					
人体の構造と機能、皮膚・毛髪などの構造について正しく理解すること。					
【成績評価の方法・基準】					
各学期ごとに実施する定期試験において 60 点以上であること。					
授業内容					
1.頭部、顔部、頸部の体表解剖学		8.消化器系			
2.骨格器系		9.皮膚の構造			
3.筋系		10.皮膚付属器官の構造			
4.神経系		11.皮膚の循環器系と神経系			
5.感覚器系		12.皮膚と皮膚付属器官の生理機能			
6.血液・循環器系		13.皮膚と皮膚付属器官の保健			
7.呼吸器系		14.皮膚と皮膚付属器官の疾患			
使用教科書					
・保健（公益社団法人 日本理容美容教育センター）					
実務教員の实務経験	開業医（医師） 40 時間/90 時間				

課程名	理美容専門課程	学科名		美容科	
授業課目名	化粧品化学	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	60 時間 (第 1 学年 40 時間 / 第 2 学年 20 時間)				
<b>【授業課目概要】</b>					
化粧品化学の働きを理解し、必要な科学的知識を学ぶ。					
<b>【到達目標】</b>					
化粧品化学の働きを理解し、必要な科学的知識を正しく理解すること。					
<b>【成績評価の方法・基準】</b>					
各学期ごとに実施する定期試験において 60 点以上であること。					
授業内容					
1. 化粧品の社会的意義と品質特性		15. 化粧水			
2. 化粧品の規制		16. クリーム・乳液			
3. 化粧品の安定性と取扱い上の注意		17. その他の基礎化粧品			
4. 化粧品と安全性		18. メイクアップ用化粧品の種類と剤形			
5. 化粧品の対象となる人体各部の性状		19. ベースメイクアップ化粧品			
6. 水性原料		20. ポイントメイクアップ化粧品			
7. 油性原料		21. シャンプー剤			
8. 界面活性剤		22. スタイル剤			
9. 高分子化合物		23. パーマ剤			
10. 色材		24. ヘアカラー製品			
11. 香料		25. 育毛剤			
12. その他の配合成分		26. 芳香製品			
13. ネイル、まつ毛エクステンション用材料		27. 特殊化粧品			
14. 皮膚清浄用化粧品					
使用教科書					
・化粧品化学 (公益社団法人 日本理容美容教育センター)					
実務教員の実務経験					

課程名	理美容専門課程	学科名		美容科	
授業課目名	文化論	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	60 時間 (第 1 学年 40 時間 / 第 2 学年 20 時間)				
【授業課目概要】					
ヘア、ファッションの歴史を学び施術の際に必要な美的感覚と表現力を養う。					
【到達目標】					
ヘア、ファッションの歴史を学び施術の際に必要な美的感覚と表現力できること。					
【成績評価の方法・基準】					
各学期ごとに実施する定期試験において 60 点以上であること。					
授業内容					
1.総論 2.日本の理容業・美容業の歴史 3.ファッション文化史 日本編 4.ファッション文化史 西洋編 5.礼服の種類					
使用教科書					
・文化論 (公益社団法人 日本理容美容教育センター)					
実務教員の実務経験					

課程名	理美容専門課程	学科名		美容科	
授業課目名	美容技術理論	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	150 時間 (第 1 学年 90 時間 / 第 2 学年 60 時間)				
【授業課目概要】 美容に用いる器具や機械の種類と目的を理解。美容の基礎的技術理論を学ぶ。					
【到達目標】 美容に用いる器具や機械の種類と目的を理解。美容の基礎的技術理論を理解すること。					
【成績評価の方法・基準】 各学期ごとに実施する定期試験において 60 点以上であること。					
授業内容					
1.美容技術理論を学ぶにあたって		8.ヘアカラーリング			
2.美容用具		9.エステティック			
3.シャンプーイング		10.ネイル技術			
4.ヘアデザイン		11.メイクアップ			
5.ヘアカットイング		12.日本髪			
6.パーマネットウエーブ		13.着付けの理論と技術			
7.ヘアセッティング					
使用教科書					
・美容技術理論 1・2 (公益社団法人 日本理容美容教育センター)					
実務教員の実務経験		美容師として勤務経験あり。			



課程名	理美容専門課程	学科名		美容科	
授業課目名	運営管理	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	30 時間 (第 1 学年 20 時間 / 第 2 学年 10 時間)				
<b>【授業課目概要】</b>					
経営管理及び労務管理の基本的事項や接客の重要性を自覚させ消費者対応の基本を学ぶ。					
<b>【到達目標】</b>					
経営管理及び労務管理の基本的事項や接客の重要性を自覚し接客の基本ができること。					
<b>【成績評価の方法・基準】</b>					
各学期ごとに実施する定期試験において 60 点以上であること。					
授業内容					
1.経営とは・経営者とは		6.従業員としての視点から			
2.理容業・美容業の経営について		7.サービス・デザイン			
3.資金の管理		8.マーケティング			
4.人という資源		9.サービスにおける人の役割			
5.健康・安全な職場環境の実現					
使用教科書					
・運営管理 (公益社団法人 日本理容美容教育センター)					
実務教員の実務経験					

課程名	理美容専門課程	学科名		美容科	
授業課目名	美容実習	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	900 時間 (第 1 学年 390 時間 / 第 2 学年 510 時間)				
【授業課目概要】 カット、カラー、ワインディング、シャンプーなど美容技術の基本技術を学ぶ。					
【到達目標】 カット、カラー、ワインディング、シャンプーなど美容技術の基本技術を修得すること。					
【成績評価の方法・基準】 各学期ごとに実施する定期試験において 60 点以上であること。					
授業内容					
1. シャンプーイング		6. エステティック			
2. ヘアカットイング		7. ネイル技術			
3. パーマネントウェーブ		8. メイクアップ			
4. ヘアセッティング		9. 着付け技術			
5. ヘアカラーリング					
使用教科書					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・美容実習 1・2 (公益社団法人 日本理容美容教育センター)</li> <li>・美容師実技試験課題「技術の解説」(公益財団法人 理容師美容師試験研修センター)</li> </ul>					
実務教員の実務経験	美容師として勤務経験あり。				

課程名	理美容専門課程	学科名		美容科	
授業課目名	リラクゼーション	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	60 時間（第 1 学年 30 時間 / 第 2 学年 30 時間）				
【授業課目概要】 各技法によるリラクゼーション、手技によるリラクゼーションを学ぶ。					
【到達目標】 各技法によるリラクゼーション、手技によるリラクゼーションが理解できること。					
【成績評価の方法・基準】 授業時間数を履修すること。満たしていないものについては補講によって満たすことができる。					
授業内容					
1.概論 2.各技法によるリラクゼーション 3.手技によるリラクゼーションの理論及び実技 4.救急法 5.運動					
使用教科書					
・担当教員オリジナルテキスト					
実務教員の 実務経験	療術院開院（療術師）として勤務経験あり。赤十字救急法指導員として講習会講師活動経験あり。				

課程名	理美容専門課程	学科名		美容科	
授業課目名	アーティストック	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	60 時間 (第 1 学年 30 時間 / 第 2 学年 30 時間)				
【授業課目概要】 デッサンの基本技術を学び、イメージしたヘアアレンジを描けることを学ぶ。					
【到達目標】 デッサンの基本技術を学び、イメージしたヘアアレンジを描けること。					
【成績評価の方法・基準】 授業時間数を履修すること。満たしていないものについては補講によって満たすことができる。					
授業内容					
1.幾何学立体のデッサン 2.静物画のデッサン 3.頭蓋骨のデッサン I・II 4.相モデルで描き合う I・II 5.髪の手書き方 I・II 6.芸術鑑賞					
使用教科書					
・担当教員オリジナル資料					
実務教員の経験	芸術家として個展開催経験あり。				

課程名	理美容専門課程	学科名		美容科	
授業科目名	ヘルス&ヘアケア	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	30 時間 (第 1 学年 150 時間 / 第 2 学年 15 時間)				
【授業科目概要】					
食品栄養学、食生活をとおし健康管理を学ぶ。毛髪の構造と働きを学ぶ。					
【到達目標】					
食品栄養学、食生活をとおし健康管理ができること。毛髪の構造と働きを理解すること。					
【成績評価の方法・基準】					
授業時間数を履修すること。満たしていないものについては補講によって満たすことができる。					
授業内容					
1.食事と健康について		8.インフルエンザ感染と予防栄養			
2.糖質の代謝		9.生活習慣病			
3.体タンパク質の代謝		10.妊娠とアレルギー（母乳栄養）			
4.脂質の種類と働き		11.行事食			
5.壊血病		12.髪の栄養			
6.ビタミンA・D・B1・B2・B6・B12・E		13.毛髪の構造			
7.ナトリウム、カリウム欠乏と過剰摂取、含有食品		14.毛髪の働き			
		15.スカルプトリートメント			
使用教科書					
・担当教員オリジナル資料					
実務教員の実務経験	特定保健指導従事者（管理栄養士）として勤務経験あり。（企業・病院）24 時間/30 時間				
	美容師として勤務経験あり。6 時間/30 時間				

課程名	理美容専門課程	学科名		美容科	
授業課目名	トータルビューティ	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	240 時間 (第 1 学年 120 時間 / 第 2 学年 120 時間)				
【授業課目概要】					
エステティック、ネイル、メイクアップ、まつ毛エクステンション、アップ、着付けなどを学ぶ。					
【到達目標】					
エステティック、ネイル、メイクアップ、まつ毛エクステンション、アップ、着付けが概ねできること。					
【成績評価の方法・基準】					
授業時間数を履修すること。満たしていないものについては補講によって満たすことができる。					
授業内容					
1. エステティック 2. ネイルケア・アート 3. メイクアップ 4. まつ毛エクステンション 4. アップ 5. 着付け					
使用教科書					
・美容技術理論 2 (公益社団法人 日本理容美容教育センター) ・美容実習 2 (公益社団法人 日本理容美容教育センター) ・まつ毛エクステンション (公益社団法人 日本理容美容教育センター) ・JNA テクニカルシステムベーシック (NPO 法人日本ネイリスト協会) ・担当教員オリジナルテキスト					
実務教員の実務経験	美容師として勤務経験あり。				

課程名	理美容専門課程	学科名		美容科	
授業課目名	シミュレーション	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	210 時間 (第 1 学年 105 時間 / 第 2 学年 105 時間)				
【授業課目概要】					
<p>実技試験・筆記試験へ向け、模擬試験を実施し国家試験の対策を実践的におこなう。  就職へ向けての基礎知識や面接指導等、就職の対策をおこなう。  サロンを想定したロールプレイングをとおしサロンワークを学ぶ。</p>					
【到達目標】					
<p>美容師国家試験実技試験・筆記試験に向け技術・知識を修得すること。  就職試験に向けた面接対応ができること。  サロンを想定したロールプレイングをとおし、実践できること。</p>					
【成績評価の方法・基準】					
授業時間数を履修すること。満たしていないものについては補講によって満たすことができる。					
授業内容					
1. 国家試験実技試験を想定した実践 2. 国家試験筆記試験を想定した実践 3. 理容サロンを想定したサロンワーク					
使用教科書					
・美容師実技試験課題「技術の解説」(公益財団法人 理容師美容師試験研修センター) ・担当教員オリジナルテキスト ・担当教員オリジナル資料					
実務教員の実務経験	美容師として勤務経験あり。				

# 【ビューティーセラピスト科】

## シラバス



課程名	ビューティーセラピスト専門課程	学科名		ビューティーセラピスト科	
授業課目名	生命活動とホメオスタシス	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	29 時間 （第 1 学年 15 時間 / 第 2 学年 14 時間）				
【授業課目概要】					
ホメオスタシスの定義と働きについて学ぶ。					
【到達目標】					
ホメオスタシスの定義と働きについて理解すること。					
【成績評価の方法・基準】					
各学期ごとに実施する定期試験において 60 点以上を取得すること。					
授業内容					
1. 生命と適応進化の歴史 2. ホメオスタシスとは 3. ホメオスタシスを制御するしくみ 4. ホメオスタシスを乱すストレス					
使用教科書					
・新エステティック学—理論編 I —（一般社団法人 日本エステティック協会）					
実務教員の実務経験	エステティシャンとして勤務経験あり				

課程名	ビューティーセラピスト専門課程	学科名	ビューティーセラピスト科		
授業課目名	解剖生理学	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	60 時間 （第 1 学年 30 時間 / 第 2 学年 30 時間）				
【授業課目概要】 身体の構造とメカニズムについて学ぶ。					
【到達目標】 身体の構造とメカニズムについて理解すること。					
【成績評価の方法・基準】 各学期ごとに実施する定期試験において 60 点以上を取得すること。					
授業内容					
1. 身体の基本 2. 骨格系・筋系 3. 神経系 4. 感覚 5. 内分泌系 6. 呼吸器系 7. 循環器系 8. 消化器系 9. 泌尿器系 10. 生殖器系					
使用教科書					
・新エステティック学—理論編 I —（一般社団法人 日本エステティック協会）					
実務教員の実務経験	エステティシャンとして勤務経験あり				

課程名	ビューティーセラピスト専門課程	学科名		ビューティーセラピスト科	
授業課目名	皮膚科学	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	66 時間（第 1 学年 33 時間 / 第 2 学年 33 時間）				
【授業課目概要】 皮膚の基礎知識と肌分析について学ぶ。					
【到達目標】 皮膚の基礎知識と肌分析について理解すること。					
【成績評価の方法・基準】 各学期ごとに実施する定期試験において 60 点以上を取得すること。					
授業内容					
1.皮膚の基本知識 2.美容上大切な皮膚の 6 つの働き 3.肌の美しさを損ねる要因 4.さまざまな肌の状態 5.肌と環境 6.肌分析					
使用教科書					
・新エステティック学—理論編 I —（一般社団法人 日本エステティック協会）					
実務教員の実務経験	エステティシャンとして勤務経験あり				

課程名	ビューティーセラピスト専門課程	学科名		ビューティーセラピスト科	
授業課目名	栄養学	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	36 時間（第 1 学年 18 時間 / 第 2 学年 18 時間）				
【授業課目概要】 栄養学の基礎知識と健康と栄養の関係について学ぶ。					
【到達目標】 栄養学の基礎知識と健康と栄養の関係について理解すること。					
【成績評価の方法・基準】 各学期ごとに実施する定期試験において 60 点以上を取得すること。					
授業内容					
1. 栄養学の基礎知識 2. 健康と栄養 3. サプリメント 4. 食品添加物					
使用教科書					
・新エステティック学—理論編Ⅱ—（一般社団法人 日本エステティック協会）					
実務教員の実務経験	エステティシャンとして勤務経験あり				

課程名	ビューティーセラピスト専門課程	学科名		ビューティーセラピスト科	
授業課目名	化粧品学	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	29 時間（第 1 学年 15 時間 / 第 2 学年 14 時間）				
【授業課目概要】 化粧品に用いられる薬剤とその働きについて学ぶ。					
【到達目標】 化粧品に用いられる薬剤とその働きについて理解すること。					
【成績評価の方法・基準】 各学期ごとに実施する定期試験において 60 点以上を取得すること。					
授業内容					
1.化粧品概論 2.フェイシャル化粧品 3.ボディ化粧品 4.メイクアップ化粧品 5.ネイル化粧品 6.ヘアケア化粧品 7.フレグランス 8.化粧品の原料 9.化粧品に用いられる薬剤とその働き					
使用教科書					
・新エステティック学—理論編Ⅱ—（一般社団法人 日本エステティック協会）					
実務教員の実務経験	エステティシャンとして勤務経験あり				

課程名	ビューティーセラピスト専門課程	学科名		ビューティーセラピスト科	
授業課目名	エステティック機器学	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	18 時間（第 1 学年 9 時間 / 第 2 学年 9 時間）				
【授業課目概要】					
エステに用いられる機器の種類とその原理について学ぶ。					
【到達目標】					
エステに用いられる機器の種類とその原理について理解すること。					
【成績評価の方法・基準】					
各学期ごとに実施する定期試験において 60 点以上を取得すること。					
授業内容					
1.電気理論					
2.人体と電気					
3.エステティック機器の種類と原理					
使用教科書					
・新エステティック学—理論編Ⅲ—（一般社団法人 日本エステティック協会）					
実務教員の实務経験	エステティシャンとして勤務経験あり				

課程名	ビューティーセラピスト専門課程	学科名		ビューティーセラピスト科	
授業課目名	衛生管理	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	17時間（第1学年9時間 / 第2学年8時間）				
【授業課目概要】 衛生管理と感染症について学ぶ。					
【到達目標】 衛生管理と感染症について理解すること。					
【成績評価の方法・基準】 各学期ごとに実施する定期試験において60点以上を取得すること。					
授業内容					
1.公衆衛生 2.衛生管理 3.感染症 4.衛生管理の実践					
使用教科書					
・新エステティック学—理論編Ⅲ—（一般社団法人 日本エステティック協会）					
実務教員の実務経験	エステティシャンとして勤務経験あり				

課程名	ビューティーセラピスト専門課程	学科名		ビューティーセラピスト科	
授業課目名	エステティックカウンセリング	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	74 時間（第 1 学年 37 時間 / 第 2 学年 37 時間）				
【授業課目概要】 カウンセラーの役割とカウンセリングの流れについて学ぶ。					
【到達目標】 カウンセラーの役割とカウンセリングの流れについて理解すること。					
【成績評価の方法・基準】 各学期ごとに実施する定期試験において 60 点以上を取得すること。					
授業内容					
1. エステティックカウンセリングの役割 2. 心のメカニズムと顧客心理 3. カウンセリングの流れ 4. カウンセリング手順（実践）					
使用教科書					
・新エステティック学—理論編Ⅲ—（一般社団法人 日本エステティック協会）					
実務教員の実務経験	エステティシャンとして勤務経験あり				



課程名	ビューティーセラピスト専門課程	学科名		ビューティーセラピスト科	
授業課目名	エステティック概論	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	10 時間 （第 1 学年 5 時間 / 第 2 学年 5 時間）				
【授業課目概要】 エステティシヤンの本質について学ぶ。					
【到達目標】 エステティシヤンの本質について理解すること。					
【成績評価の方法・基準】 各学期ごとに実施する定期試験において 60 点以上を取得すること。					
授業内容					
1.エステティックの概論 2.エステティックの本質と領域 3.ソワンエステティック 4.美と健康 5.エステティシヤンとしての心構え 6.日本のエステティック 7.世界のエステティック					
使用教科書					
・新エステティック学—理論編Ⅲ—（一般社団法人 日本エステティック協会）					
実務教員の 実務経験	エステティシヤンとして勤務経験あり				

課程名	ビューティーセラピスト専門課程	学科名		ビューティーセラピスト科	
授業課目名	関連法規	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	8 時間（第 1 学年 4 時間 / 第 2 学年 4 時間）				
【授業課目概要】					
エステティックに関連する法律を学ぶ。					
【到達目標】					
エステティックに関連する法律を理解すること。					
【成績評価の方法・基準】					
各学期ごとに実施する定期試験において 60 点以上を取得すること。					
授業内容					
1.「法」の基礎知識					
2.消費者保護					
3.人の身体に直接触れる職業に関連する法律					
4.経済行為に関する法律					
5.エステティック業界の統一自主基準					
使用教科書					
・新エステティック学—理論編Ⅲ—（一般社団法人 日本エステティック協会）					
実務教員の実務経験	エステティシャンとして勤務経験あり				

課程名	ビューティーセラピスト専門課程	学科名		ビューティーセラピスト科	
授業課目名	サロン経営学	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	27 時間（第 1 学年 14 時間 / 第 2 学年 13 時間）				
【授業課目概要】					
サロンに必要な運営、管理業務等について学ぶ。					
【到達目標】					
サロンに必要な運営、管理業務等について理解すること。					
【成績評価の方法・基準】					
各学期ごとに実施する定期試験において 60 点以上を取得すること。					
授業内容					
1. サロン開設のシミュレーション 2. サロン運営と管理 3. サロン繁栄のために					
使用教科書					
・新エステティック学—理論編Ⅲ—（一般社団法人 日本エステティック協会）					
実務教員の実務経験	エステティシャンとして勤務経験あり				

課程名	ビューティーセラピスト専門課程	学科名		ビューティーセラピスト科	
授業課目名	運動生理学	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	12 時間 （第 1 学年 6 時間 / 第 2 学年 6 時間）				
【授業課目概要】 運動と代謝・アンチエイジングについて学ぶ。					
【到達目標】 運動と代謝・アンチエイジングについて理解すること。					
【成績評価の方法・基準】 各学期ごとに実施する定期試験において 60 点以上を取得すること。					
授業内容					
1.運動生理学とは 2.運動とアンチエイジング 3.運動と代謝 4.運動プログラム 5.姿勢・ポジショニング 6.運動の実際					
使用教科書					
・新エステティック学—理論編Ⅱ—（一般社団法人 日本エステティック協会）					
実務教員の実務経験	エステティシャンとして勤務経験あり				

課程名	ビューティーセラピスト専門課程	学科名		ビューティーセラピスト科	
授業課目名	救急法	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	5 時間（第 1 学年 3 時間 / 第 2 学年 2 時間）				
【授業課目概要】 救急法の基本とエステティシャンが行う「一次救命処置」について学ぶ。					
【到達目標】 救急法の基本とエステティシャンが行う「一次救命処置」について理解すること。					
【成績評価の方法・基準】 各学期ごとに実施する定期試験において 60 点以上を取得すること。					
授業内容					
1.救急法の基本 2.エステティシャンにかかわる救急法 3.エステティシャンが行う「応急手当」 4.エステティシャンが行う「一次救命処置」 5.傷病者の移動					
使用教科書					
・新エステティック学—理論編Ⅲ—（一般社団法人 日本エステティック協会）					
実務教員の実務経験	エステティシャンとして勤務経験あり				

課程名	ビューティーセラピスト専門課程	学科名		ビューティーセラピスト科	
授業課目名	フェイシャル	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	366 時間（第 1 学年 183 時間 / 第 2 学年 183 時間）				
【授業課目概要】 皮膚をより健康に美しく若々しく保ち、心身をリラックスさせ快感や満足感を与える施術を学ぶ。					
【到達目標】 皮膚をより健康に美しく若々しく保ち、心身をリラックスさせ快感や満足感を与える施術を身につけること。					
【成績評価の方法・基準】 各学期ごとに実施する定期試験において 60 点以上を取得すること。					
授業内容					
1.フェイシャルエステとは 2.フェイシャルエステティックの流れ 3.事前準備とカウンセリング 4.フェイシャルトリートメント 5.エステティック機器 6.フェイシャルマッサージ					
使用教科書					
・新エステティック学—理論編Ⅲ—（一般社団法人 日本エステティック協会）					
実務教員の実務経験	エステティシャンとして勤務経験あり				

課程名	ビューティーセラピスト専門課程	学科名		ビューティーセラピスト科	
授業課目名	ボディ・脱毛	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	372 時間 （第 1 学年 186 時間 / 第 2 学年 186 時間）				
【授業課目概要】 皮膚表面や深部の汚れを取り去り、血液やリンパ液の循環を促し深いリラクゼーションをもたらす美しいボディメイキングを学ぶ。					
【到達目標】 皮膚表面や深部の汚れを取り去り、血液やリンパ液の循環を促し深いリラクゼーションをもたらす施術を身につけること					
【成績評価の方法・基準】 各学期ごとに実施する定期試験において 60 点以上を取得すること。					
授業内容					
1.ボディエステティックとは 2.ボディエステティックの流れ 3.事前準備とカウンセリング 4.ボディトリートメント 5.エステティック機器 6.ボディマッサージ					
使用教科書					
・新エステティック学—理論編Ⅲ—（一般社団法人 日本エステティック協会）					
実務教員の実務経験	エステティシャンとして勤務経験あり				

課程名	ビューティーセラピスト専門課程	学科名		ビューティーセラピスト科	
授業課目名	ネイル・メイク	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	378 時間 (第 1 学年 189 時間 / 第 2 学年 189 時間)				
【授業課目概要】 爪の歴史、役割、構造と働き等を理解しハンド・フットケアの必要性と技術を学ぶ。 顔の構造、筋肉と表情、プロポーションを理解しメイクアップの目的と技術を学ぶ。					
【到達目標】 爪の歴史、役割、構造と働き等を理解、ハンド・フットケアの必要性と技術を身につける。 顔の構造、筋肉と表情、プロポーションを理解しメイクアップの目的と技術を身につける。					
【成績評価の方法・基準】 各学期ごとに実施する定期試験において 60 点以上を取得すること。					
授業内容					
1. マニキュアとは 2. 爪の構造と役割 3. 手の骨格・関節・筋肉・腱 4. 手の神経と循環組織 5. 爪の病気とトラブル 6. マニキュア化粧品の特徴と効果 7. マニキュア（ハンド&ネイルケア）の実際 8. ネイルリペア・ナチュラルネイルの修理 9. ネイルアート 10. ペディキュアとは 11. 足の骨格・関節・筋肉・腱 12. 足型と特徴 13. 爪の病気とトラブル・足のトラブル 14. ペディキュア化粧品の特徴と効果 15. ペディキュア（フット&ネイルケア）の実際 16. メイクアップ概論（顔の構造、筋肉、表情、プロポーション） 17. メイクアップ技術ポイント（ベースメイクアップ、ポイントメイクアップ）					
使用教科書					
・新エステティック学—理論編Ⅲ—（一般社団法人 日本エステティック協会）					
実務教員の実務経験	美容部員、メイクアップインストラクター、ネイリストとして勤務経験あり				



課程名	ビューティーセラピスト専門課程	学科名		ビューティーセラピスト科	
授業課目名	海外エステ	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	252 時間 (第 1 学年 126 時間 / 第 2 学年 126 時間)				
【授業課目概要】 エステティックに最も関係が深く関連しているフィット、ハイドロ、リンパドレナージュや東洋医学の基礎理論と、そのテクニックを学ぶ。					
【到達目標】 エステティックに最も関係が深く関連しているフィット、ハイドロ、リンパドレナージュや東洋医学の基礎理論と、そのテクニックを身に付ける。					
【成績評価の方法・基準】 各学期ごとに実施する定期試験において 60 点以上を取得すること。					
授業内容					
1.フィット (植物療法) 2.ハイドロ (水治療法) 3.リンパドレナージュ 4.東洋医学					
使用教科書					
・新エステティック学―選択科目編― (一般社団法人 日本エステティック協会)					
実務教員の実務経験	エステティシャンとして勤務経験あり				

課程名	ビューティーセラピスト専門課程	学科名		ビューティーセラピスト科	
授業課目名	トータルセラピー	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	155 時間 (第 1 学年 78 時間 / 第 2 学年 77 時間)				
【授業課目概要】 トータルビューティーの外面美容。メイクやネイルにおける色彩の基礎、応用、バランスを学ぶ。 ヨガから基本的な体感トレーニングを身に付けお客様へのストレッチのアドバイスができるまでを学ぶ。					
【到達目標】 トータルビューティーの外面美容。メイクやネイルにおける色彩の基礎、応用、バランスを身に付ける。 ヨガから基本的な体感トレーニングを学びお客様へのストレッチのアドバイスができることを身に付ける。					
【成績評価の方法・基準】 各学期ごとに実施する定期試験において 60 点以上を取得すること。					
授業内容					
1.メイク、ネイルにおける色の選択や組み合わせ。 2.メイク、ネイルにおける色彩の基礎テクニック 3.メイク、ネイルにおける色彩の応用テクニック 4.メイク、ネイルにおける色彩のバランス 5.ヨガの基本的体感トレーニング 6.ヨガのお客様へのストレッチのアドバイス					
使用教科書					
・新エステティック学—理論編Ⅱ— (一般社団法人 日本エステティック協会)					
実務教員の実務経験					

課程名	ビューティーセラピスト専門課程	学科名		ビューティーセラピスト科	
授業課目名	接客・マナー	授業方法	講義	分類	必修
授業時間数	96 時間（第 1 学年 48 時間 / 第 2 学年 48 時間）				
【授業課目概要】 美しい整容、笑顔や挨拶を基本としたサロンで必要な動作。電話対応やクレーム処理を学ぶ。 サロンワークロールプレイングをとおり、サロンワークの流れを学ぶ。					
【到達目標】 美しい整容、笑顔や挨拶を基本としたサロンで必要な動作。電話対応やクレーム処理を身に付ける。 サロンワークロールプレイングをとおり、サロンワークの流れを身に付ける。					
【成績評価の方法・基準】 各学期ごとに実施する定期試験において 60 点以上を取得すること。					
授業内容					
1.整容、笑顔の基本 2.挨拶の基本 3.サロンで必要な基本動作 4.電話対応やクレーム処理 5.サロンワークの流れ 6.サロンワークのロールプレイング					
使用教科書					
・新エステティック学—理論編Ⅲ—（一般社団法人 日本エステティック協会）					
実務教員の実務経験	エステティシャンとして勤務経験あり				